

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	倫理 B	
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	経営情報学科		対象学年		2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	倫理（竹内整一ほか、東京書籍）						
担当教員	小川 泰治						
到達目標							
①講義で取り上げられた哲学者や先人の考え方を理解し、自己の生き方および他者とともに生きていくことの生き方という観点と結びつけて説明することができる。 ②自由、理性、宗教といった近代的な思想の根幹となる考え方をふまえ、現代における文化や社会の特質と課題について自ら問題を設定し考察できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目1	講義で取り上げられた哲学者や先人の考え方を十分に理解し、自己の生き方および他者とともに生きていくことの生き方という観点と結びつけて説明することができる。		講義で取り上げられた哲学者や先人の考え方を概ね理解し、自己の生き方および他者とともに生きていくことの生き方という観点と結びつけて説明することができる。		講義で取り上げられた哲学者や先人の考え方を概ね理解することができる。		講義で取り上げられた哲学者や先人の考え方を理解することができない。
評価項目2	近代的な思想の根幹となる考え方を十分に踏まえ、現代における文化や社会の特質と課題について自ら問題を設定し、考察を深めていくことができる。		近代的な思想の根幹となる考え方を十分に踏まえ、現代における文化や社会の特質と課題について自ら問題を設定することができる。		近代的な思想の根幹となる考え方を踏まえ、現代における文化や社会の特質と課題について自ら問題を設定することができる。		近代的な思想の根幹となる考え方と現代における文化や社会の特質と課題について結びつけて問題を設定することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	第4学期開講 本講義では、哲学や倫理学がこれまで取り組んできたテーマの中から特に古代～近代までに顕著な、自由、理性、宗教、幸福といった概念を取り上げる。これらの概念について取り組んできた先人の思想の理解と同時に、受講者自身が自ら問いを立て、「哲学する」姿勢や方法を身につけてもらうことも目指す。授業計画には授業で扱うテーマがわかるようにあらかじめ「問い」を提示してあるが、これはあくまで一例である。授業の講義部分では、設定した問いに対して、適宜哲学者や先人の思想を紹介しながら、授業者のその時点での到達点を示す。そのうえで、受講者にも批判的な視点に立ち、問題を自ら設定し、それについて考察を深めていってほしい。						
授業の進め方・方法	基本的に二回の授業で一つのテーマを扱う。あらかじめ設定した問いに対し解答するというかたちで教科書および配布資料をもとに学習し、それを元にさらに問いを設定し、受講者とともに考察をしていく。そのさいには、「子どもの哲学」や「哲学対話」と呼ばれる実践を参考にしながら、クラス全体ないしグループでの対話活動や、あるいは紙上での対話を行なう。 それぞれのテーマについて、受講者自身がなにを考え、どのような疑問をもっているかを書き留めていくためのポートフォリオや小レポートも実施する。						
注意点	授業者による講義だけでなく、受講者による発言や対話への積極的な参加を求める時間も多く確保する予定である。ここでの積極的な参加とは、発言することだけを意味するのではなく、しっかりと聴くことも含まれる。そして、何よりも他の人の発言を受けて、自らが考えを深めることがもっとも重要な積極的な参加の意味である。日頃から自身のなかにある「問い」を大切にしながら、授業に臨んでほしい。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	導入・哲学対話：30年後の社会はどうなっているのか①			シラバスの意図するところが概ね理解できる。	
		2週	導入・哲学対話：30年後の社会はどうなっているのか②			哲学対話に真剣に取り組み、他者の発言をよく聴き、理解することができる。	
		3週	正義と公正：誰もが納得する公正なルールはあるか①			取り上げられた問いに関係する現代の諸問題の背景や関連する哲学者や思想家（社会契約論、ロールズ、セン）の思考過程を概ね理解できる。	
		4週	正義と公正：誰もが納得する公正なルールはあるか②			取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。	
		5週	生命倫理：自分のことならなんでも自分で決めてよいのか①			取り上げられた問いに関係する現代の諸問題とその背景を概ね理解できる。	
		6週	生命倫理：自分のことならなんでも自分で決めてよいのか②			取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。	
		7週	情報化社会：AIは人を幸せにするのか①			取り上げられた問いに関係する現代の諸問題の背景とその背景を概ね理解できる。	
		8週	情報化社会：AIは人を幸せにするのか②			取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。	
	4thQ	9週	環境問題：私たちは誰に対して責任を負っているのか①			取り上げられた問いに関係する現代の諸問題の背景や関連する哲学者や思想家（ハンス・ヨナス）の思考過程を概ね理解できる。	
		10週	環境問題：私たちは誰に対して責任を負っているのか②			取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。	
		11週	事実と嘘：真実などあるのか①			取り上げられた問いに関係する現代の諸問題とその背景を概ね理解できる。	
		12週	事実と嘘：真実などあるのか②			取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。	

		13週	ジェンダー：男らしさ・女らしさってなんだろう①	取り上げられた問いに関係する現代の諸問題とその背景を概ね理解できる。
		14週	ジェンダー：男らしさ・女らしさってなんだろう②	取り上げられた問いとその理解を踏まえて自ら問いを立て考え、それを表現することができる。
		15週	定期試験	第2学期の内容について試験を行う。
		16週	定期試験返却・解説	試験を返却し、解説を行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	

評価割合

	試験	ポートフォリオ(小レポート含む)	態度	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0